

DCブランドの聖地「和」前面に展示会



榎本 達彦さん

THINK OUT OF THE CASE 社長

「ヒルズができてこの一帯までにぎわったわけではなかった」

DCブランド「ニコル」など有名デザイナーがかつてオフィスを構えた東京・青山の「パズル青山」。日本のローカルなデザインがグローバルに羽ばたく契機ともなった伝説のマンションだ。そのパティオ（中庭）を舞台に、世界を視野に入れたデザイン関連イベント「街の風」を定期開催する。4月に開いた第1回の催しは、和の素材を衣料や雑貨に加工する英国人デザイナーなど7人のクリエイターが集結。和のデザインをグローバルに通用する視点で消化した手づくりの品が展示された陽光差し込むパティオは、地元住民と作家たちの交流で終日にぎわった。今後も七夕やハロウィーン、クリスマスなどのタイミングで年に5-6回の催しを仕掛ける計画だ。

「癒ややかなごみとは違う和のデザインの魅力を世界に発信したい」

着物や帯の和のデザインや図柄を生かして再生した洋の雑貨やアクセサリーを扱うショップ「縛（もたい）」を、偶然の出会いでパズルに出店してから1年。世界に受け入れられる現代的な和を、デザイナーズブランドゆかりのこの地から発信したい――。この地域に暮らす住民を巻き込んだ催しを模索してきた。表参道ヒルズや東京ミッドタウンなど、大資本主導による大規模再開発とは異なる「地域住民の等身大の活動」を地道に育て上げ、かつてこの地に吹いたデザインの風を現代にそぐう形で再現したい。そんな思いは80年代前後のデザイナーズ飛躍期を身をもって知る自身ならではの。世界にどう和を問うか。答えを見つけるためにもこの場所にこだわり続ける。

えのもと たつひこ 53年東京都生まれ。77年和光大学文学部（当時）卒業後、人材関連会社やフリーランスを経て05年、ネット事業やキャリアアカウンセリングを手掛ける会社を仲間と設立。同年9月に和の雑貨を販売する英語版のネットショップを、06年春には東京・外苑西通り沿いの「パズル青山」に実店舗を開業した。